

二枚貝生息環境プランクトン等調査事業

高坂祐樹・扇田いずみ

目 的

本調査は、本県沿岸域のホタテガイ等二枚貝の毒化と毒化原因プランクトンの出現動向などを詳細に把握して、「青森県における貝毒の監視及び管理措置要綱」(平成 27 年、青森県)に基づく安全出荷及び二枚貝の水産食品としての安全性確保に資することを目的として実施している。

材料と方法

青森県沿岸域における貝毒発生監視調査の海域区分と調査定点を図 1 に、調査回数や調査内容を表 1 に示した。

ホタテガイの貝毒については、青森県沿岸域を日本海、津軽海峡西部及び東部、陸奥湾西部及び東部、太平洋の 6 海域に区分し、必要に応じて定点を設けて検査を実施した。

陸奥湾西部及び東部海域の 2 定点では、周年にわたり定期的に養殖ホタテガイ、地まきホタテガイの貝毒検査を実施したほか、環境調査並びにプランクトン調査を行った。津軽海峡ではホタテガイの漁獲が見込まれる時期を中心に、西部では養殖ホタテガイを、東部では地まきホタテガイを対象とし、貝毒検査のみを行った。

ホタテガイ以外の二枚貝の貝毒検査は、海域を暖流系と寒流系に 2 区分し、それぞれの海域に定点を設け、付着性二枚貝としてムラサキガイ（暖流系、寒流系）を対象種として周年あるいは漁獲が見込まれる時期を中心に貝毒検査を行った。

貝毒検査は、まひ性貝毒と下痢性貝毒を対象とし、一般社団法人青森県薬剤師会衛生検査センターに依頼して、マウス試験法および機器分析により行った。

環境調査とプランクトン調査は、貝毒検査の試料採取と同時に同地点において水温、塩分を測定し、*Alexandrium* 属、*Dinophysis* 属などの渦鞭毛藻を検鏡、計数した。調査方法は「平成 6 年度赤潮貝毒監視事業報告書(赤潮・貝毒調査)」(1995 年、青森県)等を参照されたい。

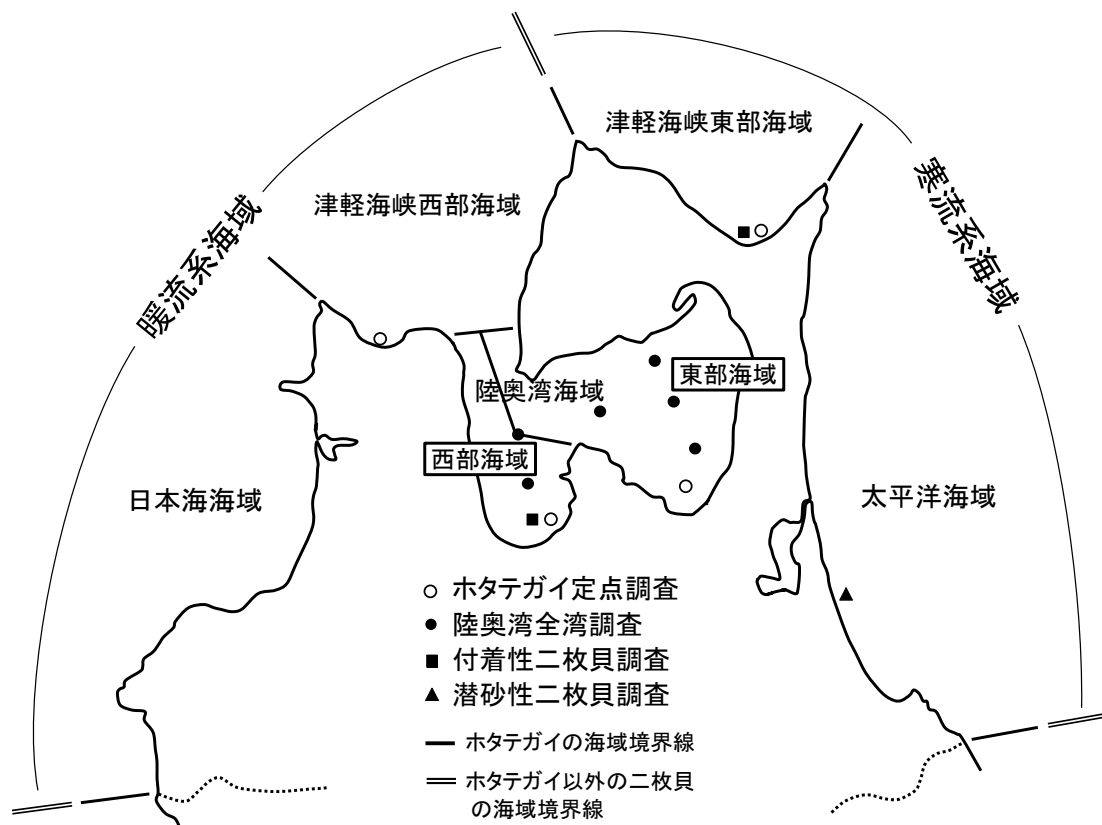


図1 平成30年の青森県沿岸域における貝毒発生監視調査の海域区分と定点

表1 平成30年の青森県沿岸域における貝毒発生監視調査の概要

調査区分	調査海域 ^{*2}	調査 定点数	調査対象貝種	貝毒検査(回数) ^{*1}		環境調査 (回数)	プランクトン 調査(回数)
				マウス試験	機器分析		
				PSP ^{*3}	DSP ^{*4}		
ホタテガイ 定点調査	陸奥湾西部	1	養殖ホタテガイ	12	33	33(5層)	33(5層)
	陸奥湾東部	1	養殖ホタテガイ	12	33	33(6層)	33(6層)
		1	地まきホタテガイ		29		
	日本海	1	養殖ホタテガイ	1	1		
	津軽海峡西部	1	養殖ホタテガイ	1	1		
	津軽海峡東部	1	地まきホタテガイ	12	12		
	太平洋	1	天然ホタテガイ	1	1		
二枚貝 定点調査	暖流系海域 (付着性)	1	ムラサキガイ		20		
	寒流系海域 (付着性)	1	ムラサキガイ	12	14		

*1. 調査回数は平成30年1月から12月までの実績である。

*2. 暖流系海域における潜砂性二枚貝定点調査は、それぞれ対象種の生産がなかったため実施していない。

*3. 麻痺性貝毒

*4. 下痢性貝毒

結果と考察

青森県沿岸域におけるホタテガイ等の毒化状況などは以下のとおりであった。

1. 陸奥湾における水温、塩分の推移並びに下痢性貝毒原因プランクトンの出現動向とホタテガイの毒化状況

(1) 水温、塩分の推移

陸奥湾西部及び東部海域の2定点の水温、塩分、下痢性貝毒原因プランクトンである *Dinophysis fortii* の出現密度の推移を図 2-1、2-2 に示した。また、両調査地点における水温と塩分の最低値と最高値を表 2 に示した。西部海域、東部海域ともに最高水温は 23°C 前後であった。*D. fortii* の出現密度は水深 20m 以深で高くなる傾向を示した。

表 2 平成 30 年の西部及び東部海域定点における水温と塩分の最低と最高

観測層	西部海域（野内沖、水深32m）		東部海域（野辺地沖、水深35m）	
	水温（°C）	塩分	水温（°C）	塩分
表面（0m）	6.0（2月）～23.2（7月）	25.016（5月）～34.004（3月）	4.5（3月）～22.9（8月）	31.955（5月）～33.812（3月）
中層（20m）	6.3（3月）～23.0（9月）	33.096（5月）～33.885（3月）	4.4（3月）～22.2（8月）	32.632（8月）～33.796（3月）
底層	6.2（2月）～22.7（9月）	33.172（6月）～34.100（8月）	4.3（3月）～21.9（9月）	32.798（6月）～33.788（3月）

底層の観測水深は海底上 2 m、水温と塩分の () 内はそれぞれの観測値の出現月を示す

(2) 下痢性貝毒原因プランクトンの出現動向

陸奥湾西部及び東部海域の2定点における渦鞭毛藻 *Dinophysis* 属の出現種は、*D. fortii*、*D. acuminata*、*D. mitra*、*D. caudata*、*D. infundibulus*、*D. rotundata*、*D. rudgei*、*D. lenticula* の 8 種であった。まひ性貝毒原因種は出現しなかった。

D. fortii の年最高出現密度は、西部海域の野内定点では 100cells/L(前年は 245cells/L)と前年より減少、東部海域の野辺地定点では 65cells/L(同 30cells/L)と前年より増加した。

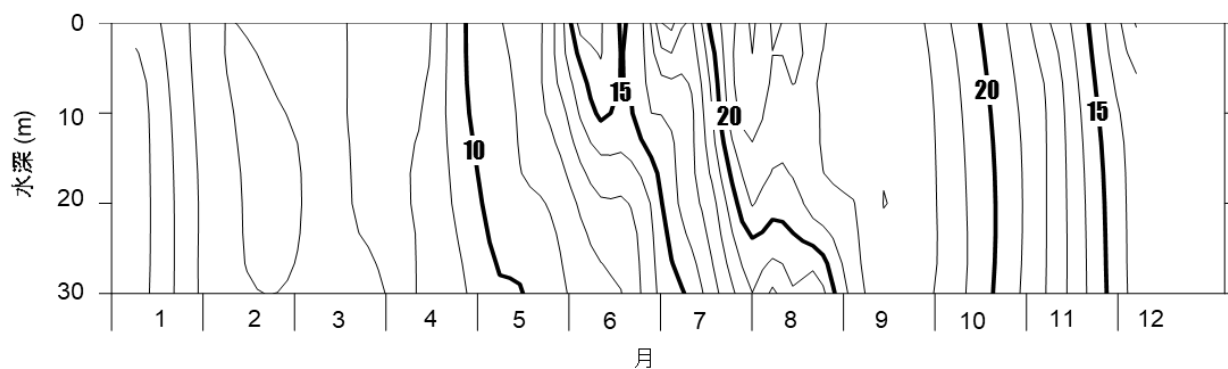
上記出現種 8 種のうち、陸奥湾における優占種は、*D. fortii*、*D. acuminata*、*D. mitra*、*D. rotundata* であった。これらの 4 種の出現密度の推移を図 3 に示した。

西部海域では、*D. fortii* は 4 月～11 月に出現し、ピークは 6 月 11 日の 100cells/L であった。*D. acuminata* は 1 月～10 月にかけて出現し、ピークは 4 月 2 日、9 日の 60cells/L であった。*D. mitra* は 7 月～10 月にかけて出現し、ピークは 7 月 30 日の 80cells/L であった。*D. rotundata* は 3 月～12 月にかけて出現し、ピークは 7 月 30 日の 95cells/L であった。

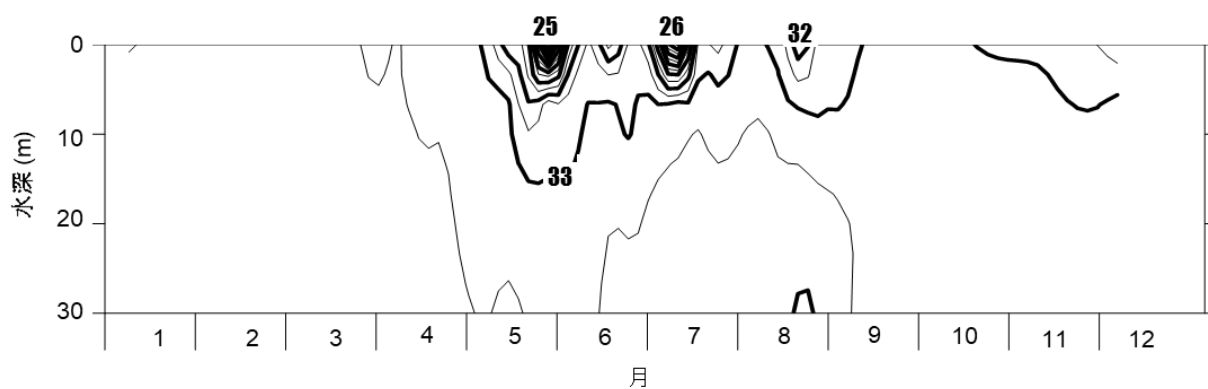
東部海域では、*D. fortii* は 3 月～12 月に出現し、ピークは 6 月 18 日の 65cells/L であった。*D. acuminata* は 1 月～12 月にかけて出現し、ピークは 7 月 2 日の 80cells/L であった。*D. mitra* は 7 月～12 月にかけて出現し、ピークは 8 月 14 日の 70 cells/L であった。*D. rotundata* は 4 月～11 月にかけて出現し、ピークは 8 月 14 日の 50 cells/L であった。

西部及び東部海域 2 定点の調査結果から、昭和 57 年(1982 年)以降における *D. fortii* 年最高出現密度及び養殖ホタテガイ中腸腺の毒力とその推移を図 4 に示した。下痢性貝毒の検査法はホタテガイが平成 27 年 3 月、その他の二枚貝は平成 27 年 4 月から機器分析法に移行し、規制値も可食部 1g あたり 0.05MU から 0.16mg/kg(オカダ酸当量)へと改正された。図 4 では過去のマウス法との比較を行うため、機器分析値についてはオカダ酸のマウス比毒性を用いてマウス毒力に換算した。機器分析で規制値未満のものはマウス法での検出限界未満であり、これまでのデータと整合性をとるために 0 とした。西部・東部海域ともに依然として *D. fortii* 出現密度及びホタテガイ中腸腺毒力ともに低水準で推移していることがうかがえた。

○水温(°C)の推移



○塩分 (PSU) の推移



○*D. fortii*(cells/L)の出現密度の推移

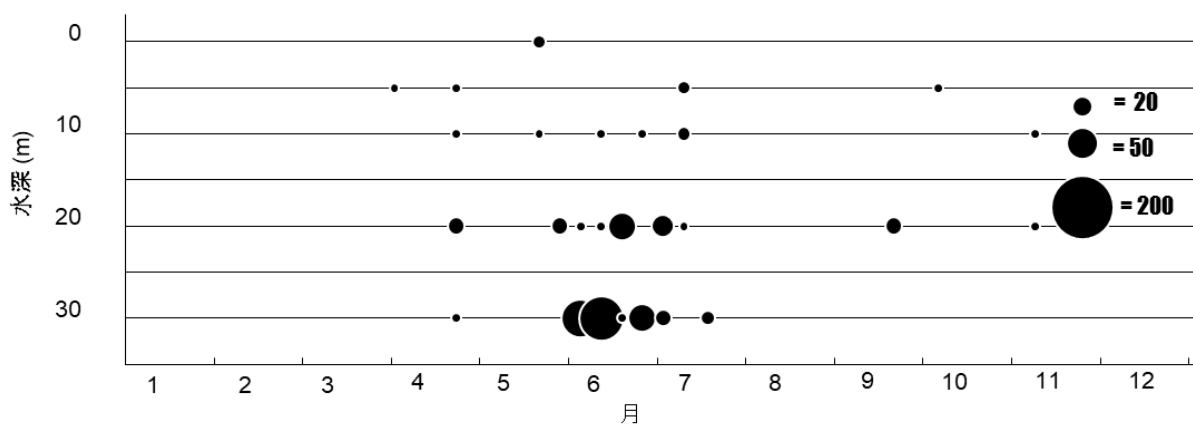
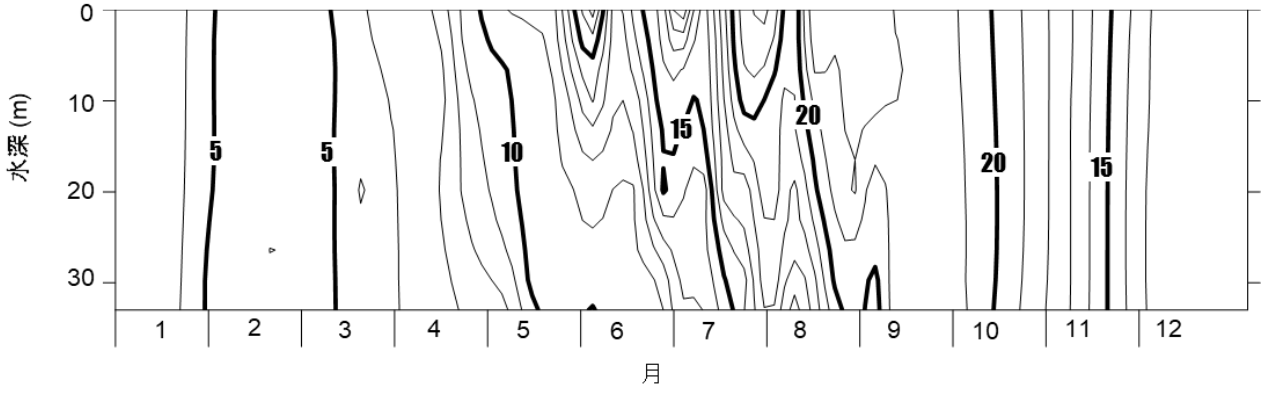
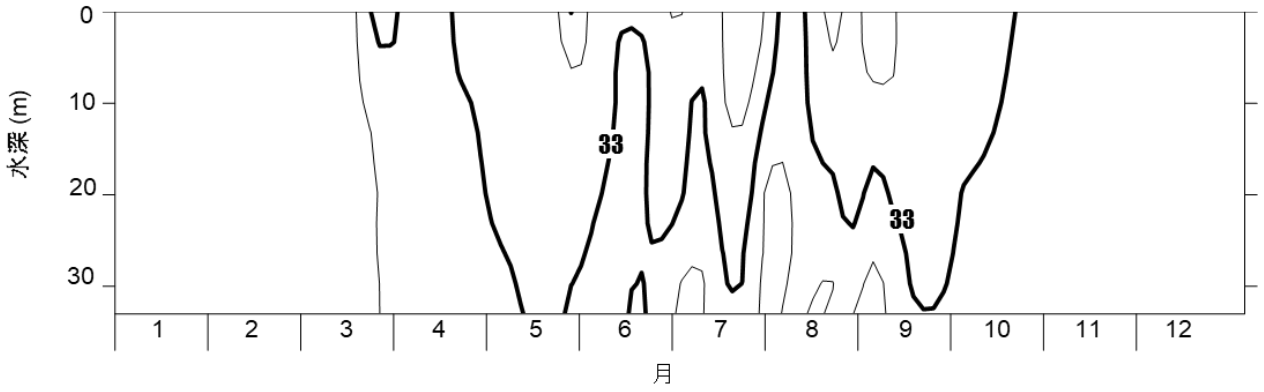


図 2-1 平成 30 年の陸奥湾西部海域定点における水温、塩分、*D. fortii* の出現密度の推移

○水温(°C)の推移



○塩分 (PSU) の推移



○*D. fortii*(cells/L)の出現密度の推移

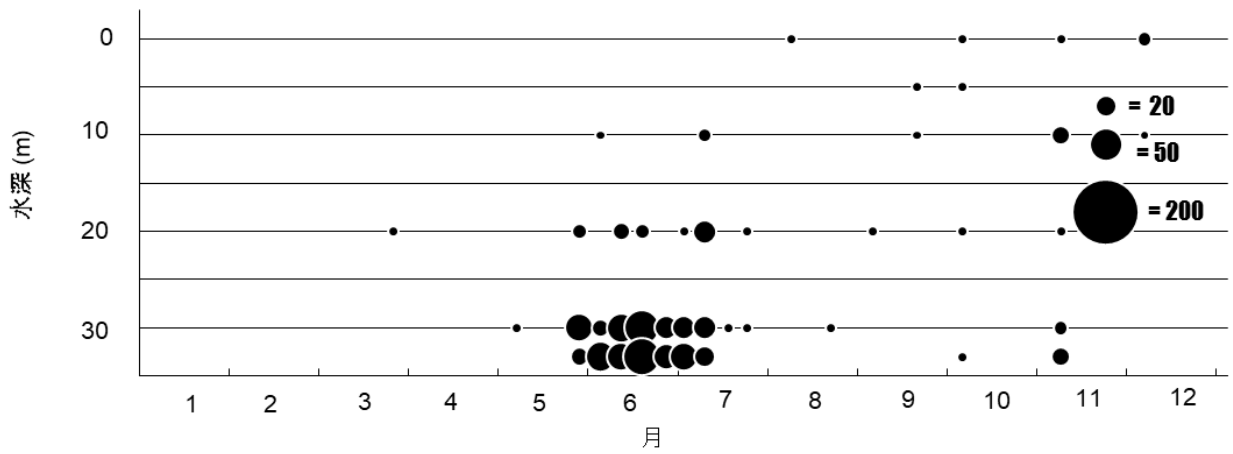


図 2-2 平成 30 年の陸奥湾東部海域定点における水温、塩分、*D. fortii* の出現密度の推移

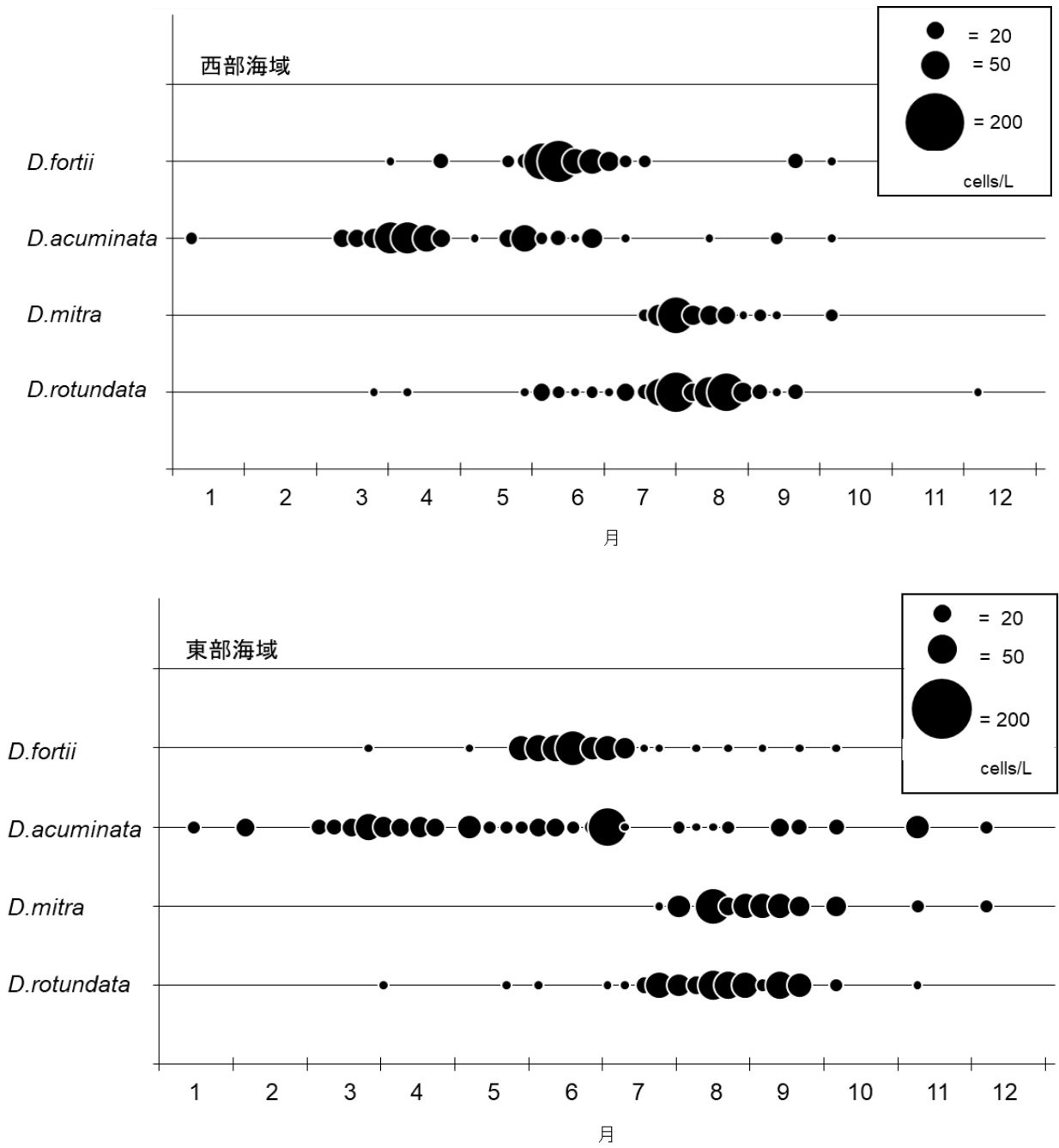


図3 平成30年の陸奥湾2定点における *Dinophysis* 属主要種の出現密度(cells/L)の推移

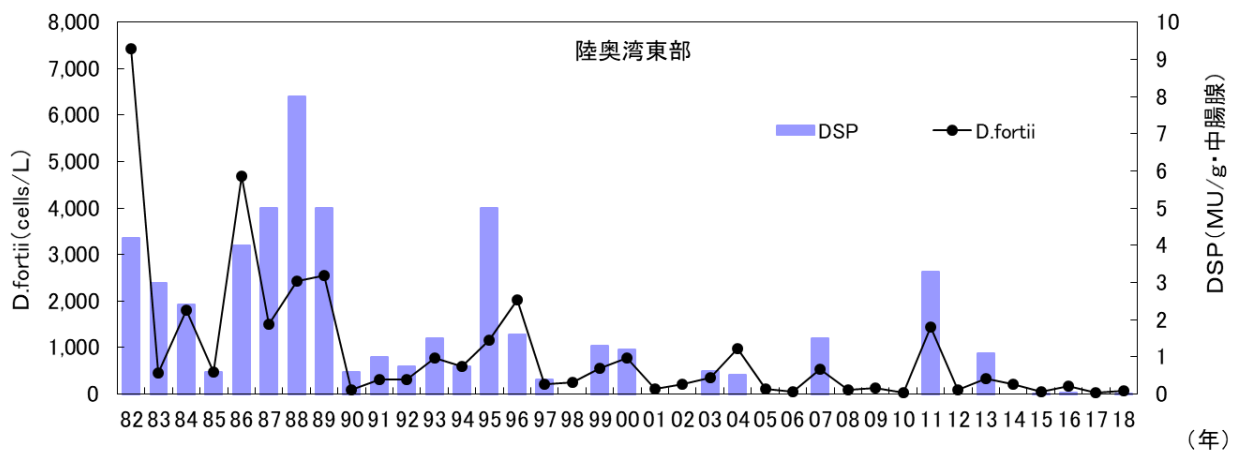
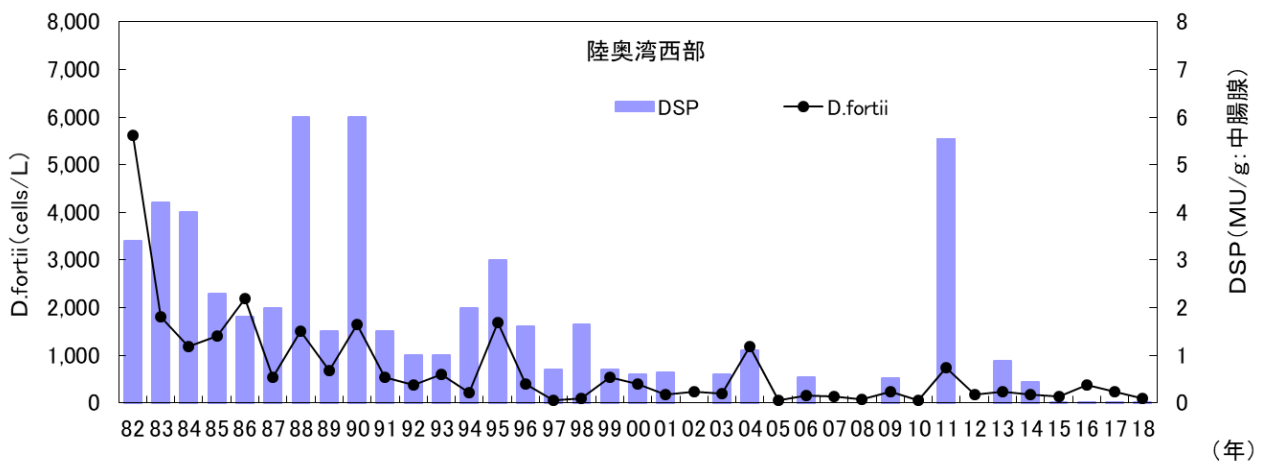


図4 昭和57年(1982年)以降の陸奥湾2定点における*D. fortii*出現密度と養殖ホタテガイの下痢性貝毒毒力(DSP)の推移(年最高値)

(3) ホタテガイの毒化状況

昭和53年(1978年)以降における陸奥湾海域産養殖ホタテガイの出荷自主規制状況を図5に示した。平成30年はまひ性貝毒・下痢性貝毒ともに毒化は確認されなかった。

2. 津軽海峡におけるホタテガイの毒化状況

まひ性貝毒・下痢性貝毒ともにいずれの海域でも毒化は確認されなかった。

3. 暖流系海域及び寒流系海域におけるホタテガイ以外の二枚貝の毒化状況

まひ性貝毒・下痢性貝毒ともにいずれの海域でも毒化は確認されなかった。

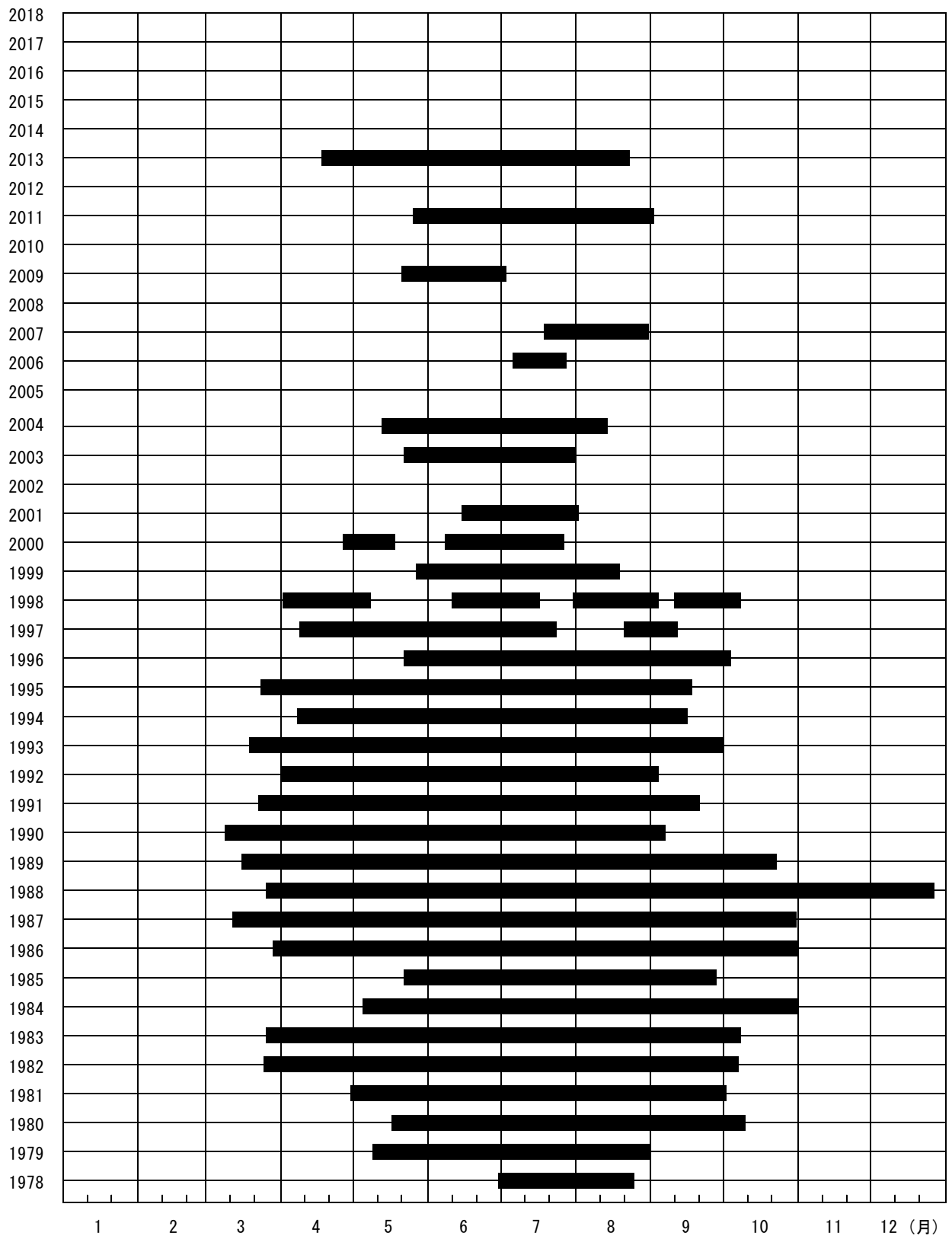


図5 昭和53年(1978年)以降における陸奥湾海域産養殖ホタテガイの出荷自主規制状況